

THE WEDDING

結婚特集



絵 / 石阪春生
カメラ / 菊池 満

H. ISHIBASHI

うどんデート

織田正吉（放送作家）

純子

自分ではそういう自覚はなかったが、あとで彼女の述懐したところによると、よくうどんを食べに行ったというのである。

時代の結婚のぼく

デイトの語らひはたいていしやれた喫茶店でときまつているのに、けつたいなところ連れて行く人やと思つたそう。そういうえば、相手が男女のみさかいなく、私はよくめん類を食べに誘っている。私はコーヒーをあまり飲まぬかわり、うどん・そばなら三度食べてもあきない。あるとき、彼女がハンカチで目がしらを押えるので、感激の涙かと思つたら、七味唐がらしがききすぎたというのであつた。

あほらしい。すでに、おっさんと呼ばれるに近い年齢になつていたし、めん類を食べながらの会話は、世帯じみていたに違ひない。いずれにしてもロマンティックなムードとは縁の遠い逢いびきではあつた。

冬のさなか、北野町あたりをよく歩いた。あの界限は



ご承知のように連れこみホテルが多い。私はさして気にもとめていなかったが、彼女の方は非常にそれを恥かしく思っていたらしい。しかし、ヤキバの前を通つても死

んだもんになるわけではないだろう。自動車の多いのは困るが、あのあたりの坂道は夜の闇が町なかよりも濃く、好きである。逢いびきは、宙ぶりんで、心が落着かず、あんな気持が二年も三年もつづいてはたまらないという気がする。また、そういう期間が長いと、ふらふらと気移りがし、他の女性が気になりだしてはいけない、また彼女がそうではなおさら困るので、電光石火、あつという間に結婚式をあげた。



愛しあう二人に言葉はいらない 見つめあった瞳が 深い意味と喜びを 告げるのを待つ
あふれくる愛の奏でる柔かい調べに ただ 微笑みを交しながら いつまでも 黙っている



*紳士服飾・婦人服飾

Serizawa **セリザワ**

MEN'S WEAR LADIES' WEAR

楽しかった神戸のデート

高橋 立 成 (朝日新聞神戸支局)

千代子 (尼崎市立昭和中学教諭)

喫茶店で向い合ってすわると、彼はあまりおしゃべりをしないで、じっと私を見つめることが多かった。そんなとき、私は胸がきゅっとしめつけられるように痛むのでした。大阪しか知らない私に、

神戸っ子の彼はセンター街や元町通、そしてミナトなどを案内してくれました。

時代の婚約時代
わたしの
明るい町並みと、あか抜けした服装の人びと、そのなかに目立つ外人の姿などが、わたしをなんだか遠いところへきたような気分にさせ、彼について歩いていると、私たちの恋がよいえすばらしいもののように思えてくるのでした。



大学一年の秋「速記研究会」ができ、もの珍しさも手伝ってはいりました。そこに彼がいたのです。

この会は彼が中心になってつくったものでした。高校時代からやっていた速記を捨てきれなかったのでしょうか。

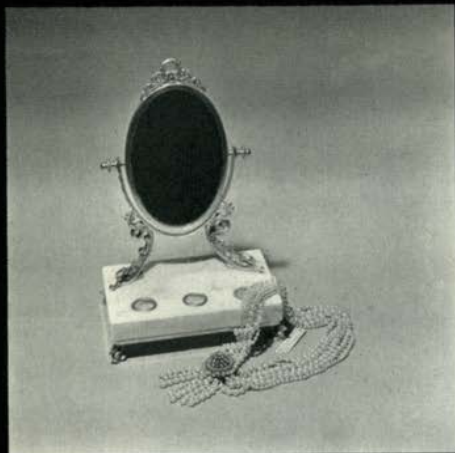
やはり一年生であった彼が、そのときから私たち新人の指導をする「先生」に早変わり。ミミズのような速記文字を覚えるためには、欠かさない練習と根気が要求されま

す。ふだんおとなしい彼ですが、こと速記になれば非常にきびしい先生でした。しかしそのきびしきのなかに感じられる性格のやさしさと、ひたむきな情熱に、私は好きというより、尊敬の念で彼をみていました。

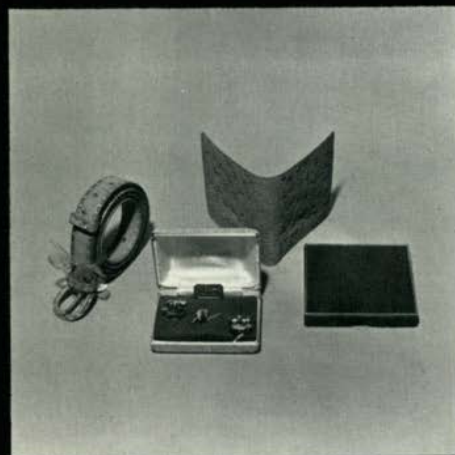
大学三年も終りのころ、私は彼にネクタイをプレゼントしました。恋人にあげるというような気持でなく、あの人にプレゼントしたいという自然な気持からでした。

でも、これがきっかけとなって二人は急速に近づいていったのです。私は高校時代、水泳部にいた関係もあって、須磨や王子プールへ泳ぎに行き、彼よりも真黒く日焼けして、両親に笑われたのも楽しい思い出です。大学を出て二年目に結婚するまで約二年半の交際は夢のように過ぎました。私はしあわせでした。もし私が速記に興味をもたなかったら…。今日の幸福はなかったでしょう。そして神戸の町が花を添えてくれなかったら、私の恋はもっと味けないものになっていたでしょう。





いまひとりてリボンをときながら あんなにもすぐ聞くことをとがめた
君の心をうれしく感じる こうしていると 結んでくれたリボンに
君の白く細い指の匂いが 残っているように よけい愛しく思い出せるんだ



世界の品々を集めて
高級洋品雑貨の店



元町2丁目
33 4707-8

学生結婚式

岩田 順之助 (西村貿易勤務)

久子

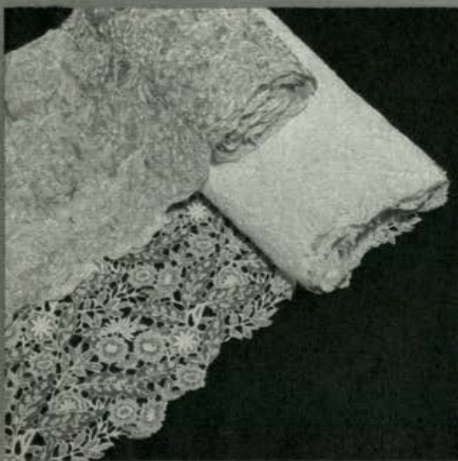
新約聖書・コリント人を誦される牧師さんの言葉が、彼に手を取られて立つわたしの頭の上をとおりすぎてゆきました。一瞬、緊張したわたしは、彼とふたりで一生涯張ってゆこう。と思いました。

わたしの結婚式

三年前の八月一日、宝塚ホテルに牧師さんを迎えて挙げた結婚式。誓約のあと互いに指輪をかわして愛を誓いあったふたり。まだ、そのころは彼は関西学院大学に、私は神戸女学院大学に籍をおく学生同士でした。仲人をお願いした関学の小宮院長先生の奥様に手を取られて、白く敷きのべられたヴァージン・ロードを歩むとき、わたしの心はずんでいました。自分では落着いていると思っておりましたが、式るとき友だちが録音してくれていました録音テープを、あとで聞いてみると驚いたことには録音されているのは牧師さんの声ばかりで、肝心のわたしたちの声は聞きとれず、ふたりで顔を見あわせて、あ



式のと、お酒に弱い彼がなれぬお酒に顔をまっかにしていたのも愉快に思い出します。披露宴のスピーチで印象に残っていますのは、前途も定かでない青年と結婚することの勇気をほめてくださったのと、友だちが普段のわたしを、お寝坊ですから……とスツパぬいて大笑いされたことでしょうか。その他のことは、ただ夢中ではんやりとかすんでいるばかりです。暑さかりの結婚式でしたが、夏休みを利用して結婚しようということになり、一日が大安でしたのでこの日を選ぶことにいたしました。新婚旅行も学割を使って東北地方へ行っていました。ふりかえってみると、先生方や友だちと心から祝福してくださる人たちに囲まれての荘厳さと楽しさのあふれた結婚式でした。



美しさを創る **アスター ニュートン**
 オートクチュール コーベトアロード TEL 33-1818
 オーサカハンシン TEL 361-1201

コーベトアロード
オーサカハンシン

TEL 33-1 81 8
TEL 361-1 20 1

友情につつまれて

本屋敷 錦 吾 (阪神タイガース遊撃手)

征子

ぼくたちは以前、結婚式はどこか静かな教会で挙げようと思合っていた。

しかし、時期が近づくにつれて、挙式の形はそんなに考えることはない、今まで

お世話になった方々に喜んでさえただけばー。

そう思うようになった。

昭和41年3月11日。

神戸オリエンタルホテル

で、ぼくたちは結婚した。

豪華でもない、派手でもない、ごくあたりまえの

結婚式だった。

式後、当日の披露宴は百人を越えた。

小学校時代の先生や、大学時代の恩師をはじめ、同僚、球団関係者は勿論、たくさんの友人達が、

それぞれ忙しいなかをぼくたちのために足を運んでくれた。

よかった。ほんとによかったーぼくはあのとき、そんな気持ちでいっぱいだった。

人に、結婚式の心境は?」なんて聞かれて困るのだが、

ぼく自身「アがる」こともなく「ふつう」だったと思う。挙式の準備やそのほかのことも友人にずいぶんお世話になり、ぼくはあまり気を使うことがなかった。

ただ、将来ぼくたちが築く家庭への責任は十分感じて、少々緊張していたが、それはあたりまえのこと。

幸いだったのはスケジュールの都合でカードがつまっていたのにもかかわらず球団の厚意で一日休みがもらえて、新婚旅行は有馬へ。

ぼくの車の手入れは悪く、

当日もホイルクヤップのはず

れたコンテッサはちよつぱり照れながらスタートした。

見送りのみんなは、さぞかしおかしかったことだろう、

有馬に行く途中、妻が披露宴のときに十分食べていなかったようなので、おなががすいていると思ひ三宮で脱線、

「おすし」を食べに行ったのがたのしいおもいでとなっている。

今、ふたりでプランをたてているのだが、シーズン・

オフを待ってどこかふたりっきりで旅行をしたい。



月の光がこぼれるように
歎びにあふれた涙のしずくがつづられて
私をかざる

JP

田崎真珠

Pearls by Tasaki

本社・神戸市葺合区旗塚通6-9 三宮店・神戸新聞会館秀品店内 銀座店・東京銀座西6丁目 ヒルトン店 東京 ヒルトンホテル内
オータニ店・東京 ホテルニューオータニ内 札幌店・札幌 パークホテル内 養殖場・長崎県・佐賀県・熊本県・島根県・山口県

愛らしいそよ風にさえ痛むであらう

今宵ひらく^{うすあお}薄緑き花の心

その小さな蕾のふるえ

乙女の胸に秘めた願いをたくして

ブーケは空に飛ぶ

待ちつづけた歓びの日の思いは

さまざまに みだれて

花の間を 草の間を

染めて流れる



左よりPMダイヤモンド指環
PMダイヤモンド指環
PMエメラルドダイヤ指環



Tajima
タジマ

*** 宝飾店

元町2・TEL ③ 0387・2552

当店でお買上げのダイヤ指輪は販売価格で引取り交換をお約束しております。

未来をかざったチュールレースが

九月の花嫁の華奢な肩をおおって

その戸惑^{とまどい}をかくす

すでに過ぎてしまった時を

なつかしく思う瞳が

心なしかうるんで見えるのは

乙女の感傷だろうか

愛^{いと}しい人とともに歩みはじめる

幸福せな花嫁のために

愛の妖精は

金色の陽りをまきちらす

Kitamura Pearls 北村真珠株式会社

神戸：元町店 TEL 〇30072 オリエンタルホテル店 〇38111 EXT. 331 東京：スキヤ橋店 TEL (571) 8032

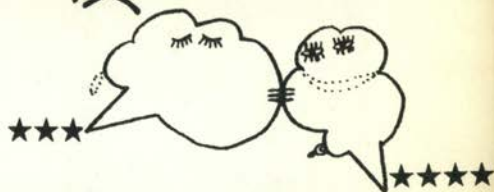


中川衣裳店

東店 三宮センター街そごう前入る浜側 西店 上沢7丁目電停上る
電話 神戸 (33) 7524番・5855番 電話 神戸 (55) 0680番



髪



白き花姫

*三つ編みのシニヨン

小さく細く編んだ三つぐみのシニヨンをたばねて

両耳をおおい

ふさふさとたばねた長い

シニヨンを肩に降ろして

リボンを飾ると

スペイン風の姫君のような

美しい花嫁のヘヤースタイル。

白い花とチュールが

清楚な気品をそえる

九月の花嫁は輝やくばかりです。

西野 明

〈ヘヤーデザイナー〉

小さなおしゃれ

*三つ編みのヴァアラエティ
シニヨンの三つ編みは
若い人は肩に細くたら
したり、ミセスは太いものを
たばねてまげにつけたり
自由に楽しめる
新しい傾向のヴァアラエティ
にとんだヘヤースタイル
をつくりあげます。

ゴルフと娘の結婚式

福 富 震

一 〈神戸ドレスメーカー女学院理事長〉

娘の章子は神戸女学院の高等科を卒業して国際キリスト教大学四年。ドレメの杉野芳子先生のもとへ二年の六年間は東京の下宿ぐらし。休みはスキー・山のぼりと家にあまり帰って来ないので見合い写真を撮ったのもドレメ卒業のときというのんびりしたものだった。はくも家内も大変忙しかったせいも

ある。はくが作家の白川渥

ら氏とゴルフ仲間、その仲

間にムコになる加藤主計君

がいた。四国の国許で嫁さ

の父か

娘の心配をしているという

話を白川君がしたとき、う

ちの娘どやろ」とつい口に

出たのがキツカケで話とは

んとん拍子。家内がアレヨアレヨといっている間に、北

野クラブの見合いで一挙に決定。見合写真は無用となった。

仲介は白川ご夫妻で五月二十七日新居浜で結婚式。前日

は高松の志度ゴルフ場で、当日は新居浜ゴルフ場、翌日は

松山ゴルフ場と記念競技会となった。ムコ殿も参加したげ

であったが、家内にぐつと今日だけはとにらまれてあえな

く断念。娘は「ゴルフのための結婚式みたいヨ」。はくは実

力を發揮して、主計・章子結婚記念競技会」と彫られた



章子さん

銀の優勝杯を獲得して親父の貫録を示すことが出来た。

挙式は新居浜の近鉄観光ホテルで行われたが、式が初まるのに花嫁がいなかったり、披露宴がはじまるのに仲介役の白川君の姿がみえなくなったりてんやわんや。白川君をあわててさがすとTVの相撲をかぶりつきで観戦中。やっとあいさつが初まると加藤さんまでは出たがムコの名前がでてこない。昭和十年生れのムコが五年生れになって花嫁がびっくりしたり。しかし最初の間違ひも

あいきょうとなって会場はなごやかになり、後は堂々としたゆきとどいたあいさつで結婚式の格はぐつと上昇した。

花嫁の父は淋しいでしよう
と皆によく云われたけれど娘は六年間親もとを離れていた
せいと、プロテストの学校で育つたためかやはり考え

方は個人主義的なところ、自由主義的なところがあって、合理的な親娘関係であったように思える。だから下の娘のように家から甲南大学へ通いへんに甘えたりする日本古来の情緒に流れる交流がなかったせいかなり淋しさは感じていない。章子がしっかりした一人の人間として成長しているという娘への信頼感があつたからかもしれない。



飲びにふるえる私の手を
支えてくれる手のあたゝかみに
永遠の愛を感じる…

オリエンタル  ホテル

TEL <33> 8111

一粒の麦が開花するとき

中村 千鶴子 〈神戸市会議員〉

娘が四人、息子が一人。そのうち今年の一月九日に末娘のたか子がフランスへ結婚のために旅立ち、一月三十一日に三女のけい子が大阪ロイヤルホテルで挙式。娘の華やかさとお友達がそろって花のようだった家のながか急にひっそりすると、花が

しぼんだかのように淋しさが胸にあふれて、慌ただしかった式の準備、旅立ちの準備にわれながら超人的に母市会の仕事のあい間に走り廻ったと感嘆するほどだった嫁ただけにひとしお感じられました。長女、次女は今も私の近辺で生活しておりますので孫も多く淋しさもまぎれるのですが……。

一月九日は私の誕生日でした。末っ娘の異国での生活の不安から私は前夜忙しい娘に話も出来ないで手紙を細やかにしたためました。

ところが翌朝たか子が私に手紙を渡すのです。そつとあけてみると。ママおめでとう。心配しないできつといいお嫁さんになります。と。たか子は私の心をわかつてくれていたのだなと思うと思わず涙がこぼれて、あの子は

何でもわかってるのだからと私の手紙は渡さず、凍おるように寒い朝飛行場まで送ってゆきました。

もうそのたか子もリオンでベビーの誕生を迎えようとしています。幼なじみだった二人が、さちをとターコと必ず一緒に書いた手紙を送ってくれるこの頃、二人は一本の線の上で安定した生活をしているんだなとほんとに嬉しく思います。



けい子さん



たか子さん

けい子は三人がウェディングドレスだったのでぜひ白むくの花嫁姿をみたいという父や兄の男性方の希望もあって、打掛け姿の花嫁になりました。当日大阪まで車中私はけい子の衣裳の重さがつらかうと、腕を柔らかくもみほぐしてやったり、背中をさすったりいたしました。後でけい子が「私も娘がお嫁に行くときにきつと身体をもみほぐしてやるの」といったとき、母の体温の快よさがわかっていてくれたのだとまたほろり。自分から出た一粒の麦が、株をつくって開花するとき、親は遠まき愛情で太陽になったり、水をやったりすることが大切です。

いじくったり、さわったりするしゅうとめ根性はなくしたいもの。二人だけの愛情をはぐくみあえるようにすることが、結婚した二人へのほんとの親の愛情だと思ふのです。



楽しかったドライブ旅行

平井英夫 〈神戸ヤナセ勤務〉

千恵子

車に結びつけられたカラカラ、カンカンと賑やかな空
缶の音も友だちが口々に叫ぶ「おめでと〜」「おめでと〜」
の歓声にかき消されてしまいそう。横でハンドルを握る

彼の顔もホコロビツぱなし、モチ

ロン私の方も夢中で手を振って、

車をとりかこむ友だちの間をぬっ

てドライブ・ハネムーンへと出発。

一昨年の8月21日晴れわたった夏
空がぬけるように碧く目にしみま
した。

私たちは7年ごしの交際でお互

いによく知っていただけに、あり

きたりの新婚旅行は「イヤだな」

と話し合い彼がカーキチであった

ところから新婚旅行はスポーツカ

ーのドライブで、と決めたのです。

琵琶湖ホテルに宿をとり、そこから毎日車を使って食

べあるき、ボーリング、水泳……と二人で楽しみました。

四日目、美浜にゆく予定でホテルを出て美浜までは舗装

道路が通っていると聞いてきたのに、行けども行けども

目的地につかずそのうちガタガタ道になり尾浜まで行っ

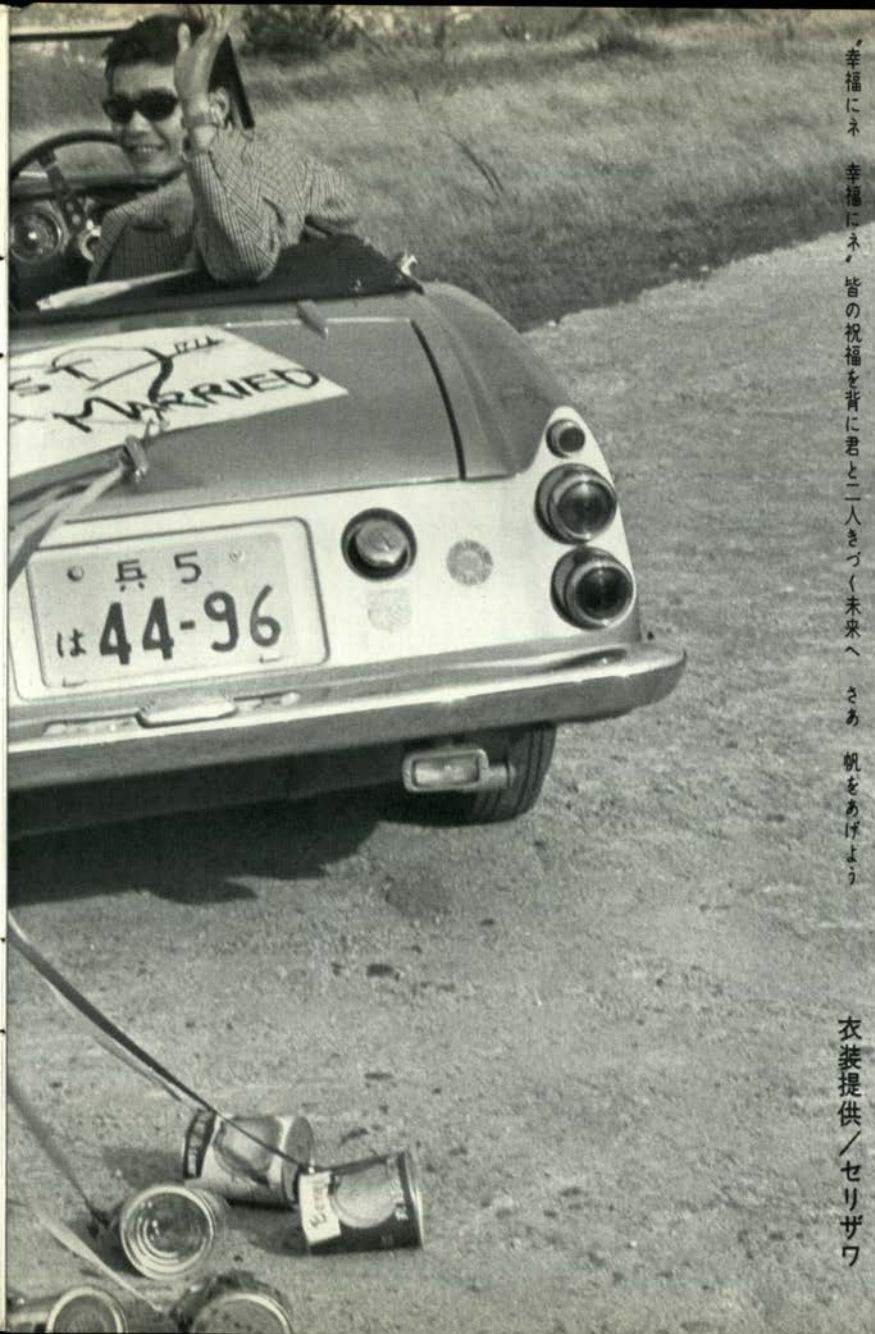


てしまうあります。それが原因で「アナタがしつかりし
ていないからよ」「助手席に座っている者が気をつけろ」
と初ゲンカ。

翌朝、彼より先に目を覚まして一人で泳ごうとロビー
に降りてきたところメイドさんに「お部屋を片ずけても
よろしいでしょうか。」と聞かれ、「いいえ、主人がまだ
寝すんでおりますから……」と、そのときはじめて「主

人」という言葉を口にして、ハッと私
は結婚して新婚旅行にきているんだと
いう「妻」の自覚を持ちました。それ
で気を取り直して部屋に戻り、彼が目
覚めるのを待つて謝まり仲なおりをい
たしました。その日、昼すぎから比叡
山に登り誰もいない境内でカクレンボ
をしたり、鐘樓の石段を兎とびで競走
してあがつたり……。

快よく疲れた二人が、山の上から夕
暮れのなかに沈むたゆとうさざなみの
影もない湖を見下ろしながら、しみじ
みとこれからの生活を語り合い、「やっぱり彼は頼もしい
わ」……。これまでの甘い雲に包まれたような恋愛時代
と異なり喜びも苦しみも彼と二人でわかち合ってゆこう
と決意も新たにいたしました。



幸福にネ 幸福にネ 皆の祝福を背に君と二人きづく未来へ さあ 帆をあげよう

衣装提供／セリザワ

紳士シャツ

大和屋のシャツ

三宮センター街 ㊤ 6956



舶来服飾

マルエス

元町通3丁目 ㊤ 6541



ACCESSORY SHOP

T A Z U

太 津

三宮本通 ㊤ 4780



男子洋品の店

フナキヤ

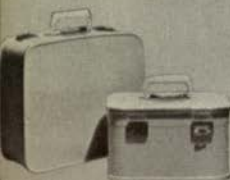
元町通3丁目 ㊤ 3617





BEAUTY SHOP
阪 神 美 容 室

川田つる美経営
大 丸 前 ☎6264
元町阪神地階 ☎5592



カバンの店
大 上 鞆 店

元町1丁目 ☎3962
さんちかメンズタウン 39の4627



オモチャの店
カ メ ヤ

元町通3丁目 ☎0090
元町通1丁目 ☎0768
三宮センター街 ☎4969
さんちかタウン ☎4045



FASHION ACCESSORY
A K I R A

三宮センター街 ☎4895





霧にけむる高原に
 ひっそりとした やさしさを見せて
 咲く小さな花
 それほどに初々しい
おとめ 処女のたたづまい
こころ はじらいを含んで固い思に
 しなやかな ジョーゼットの
 やさしさが しみる


 ランジェリーの店

トア・ロード市電大丸電停前
 TEL <33> 3 4 3 6

印象にのこる高千穂峽

川 飛 穀 晋（へんかつ武蔵）

川 飛 仍 馥 子

一九六五年二月八日——この日にはくは妻を迎えた。

生田神社で挙式し、神仙閣で披露宴を行った。このとき従妹がはくの高校の一年下の後輩と結婚することになり親戚関係も同じところから合同結婚式となったという次第。

ー ン ム ネ ハ の の ば く

新婚旅行は仕事の関係であまり店をあげるわけにもゆかないため、交通公社で周遊券をくんでもらい、彼女の希望もあって行先は南九州と決めた。八日の夜、船で別府に渡った。そのあと、地獄めぐり

阿蘇 → 戸下温泉 → 宮崎
崎（一泊） → 高千穂峽 → エビノ高原（一泊） → 桜島 → 鹿児島（一泊） → 帰神。

と、まあ、こういうコースで行ったわけだが一日、二日と経つに従って、結婚指輪をはめた手がだんだんと重く感じられ、ああ、なんでこんなことをせんなんのやるか……

そういうときに想い出すのが、最初に船のロビーではくが、これで二人は離婚でもせんかぎり、一生、一緒に暮らすわけやけど、悔はないか」と聞いたとき、はいいと



応えた女房のシオラシサ。本当に結婚してよかったと思う。

新婚旅行ともなれば、これまでの気楽な学生時代の旅行とか友人同士の旅行とちがって、道中、責任感をヒシヒシと感じた。旅行の間中、妻が頼りにしているのははくだけであり、はくが頼りにできるのははくである。いくら楽しいからといってウツカリ、のんびりはしていられないというものだ。新婚旅行で一番印象に残っている

のが、高千穂峽に行ったとき、断崖のうえから、谷底をおっかなびつくりのぞきこんでいた彼女のカレンな姿といえようか。旅行の最後に鹿児島で泊ったとき、予約していた部屋がふさがっていて、別の部屋に通された。その部屋には花を飾り、汐くみ人形がお土産としておかれている。その何気ない心ずかい

が嬉しかった。かざられた日数で周遊券だったため、あの組とは船で一緒だったな。ああ、あそこのカップルは……という具合で、ゆく先々で他の新婚さんとおつつかったのが、すこし気分をそこなつたが、これから出かける人はできれば独自のプランをもって人ごみを避けるのが、ゆつくりと旅行を楽しむコツだろう。しかし、一言にしていえば未知数と人間性の発見につきぬ興味がわいて面白かった」というところだろう。

ご結婚披露宴は…



■神戸三宮駅前にて国鉄・阪急・阪神へと最も足場がよく参列者のかたがたからご好評をいただいております。

■新婚旅行宿泊ご優待
挙式されましたお二人様を新大阪ホテルチェーンのホテルへ一泊ご優待申し上げます。

■披露宴お一人様 2,000円より

新大阪ホテルチェーン

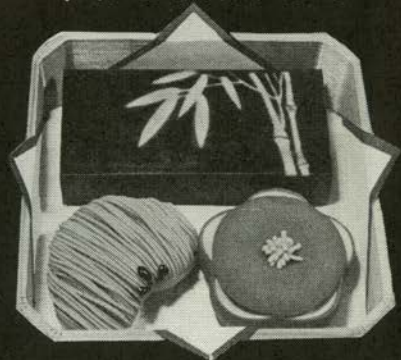
神戸国際ホテル

神戸国際会館内 TEL <22> 8 0 5 1

一生に一度の
晴れの日



幸せをたくして



ウェディングケーキ ￥3,000～￥10,000
デコレーションケーキ ￥350～￥1,000
三ツ盛お引き菓子 ￥550～￥1,000

神戸にそだって 70年

風月堂

元町 3 丁目 TEL 39 2412～5

さんちかスイーツタウン TEL 39 3455